

## 令和5年度 第2回 上島小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年7月7日（金） 14時00分から15時30分
- 2 開催場所 上島小学校 会議室
- 3 出席委員 黒柳 寿一、青木 榮治、大橋 薫、山本 暢子  
平野 昌、鈴木 知美、池村 俊典、森園 大介
- 4 欠席委員 小坂 喜世子、安川 彰一
- 5 オブザーバー 大平 智（曳馬協働センター）
- 6 学 校 山本 千興（校長）、竹田 良子（教頭）、山内 剛治（主幹教諭）  
高橋 靖人（担当）、清水 遥（CSディレクター）
- 7 教育委員会 清水 悠（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 清水 遥

### 10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、青木委員から黒柳会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

### 11 協議事項

- (1) 現在の児童の実態と今後の上島小の在り方について
- (2) いじめ防止基本方針について

### 12 会議記録

司会の高橋から、委員総数10人の内8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

#### (1) 現在の児童の実態と今後の上島小の在り方について

議長の指示により、別紙資料に基づき校長から1学期の取り組みについて説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 参観会は見ることができなかったが、運動会に関して皆で協力し子供たちも楽しくできた。PTAも学校と協力してしっかりできたと感じている（平野委員）
- ・ 運動会の開催にあたり、多数の保護者の協力があったと聞いている（黒柳委員）
- ・ 子どもたちにとっても、大きな会場で行えたことに意味があったと思う。  
(黒柳委員)
- ・ 4月の参観会では緊張している様子が見られたが、6月の参観会では学級の落ち着いた雰囲気や子供同士の仲の良さが感じられた。ICTを活用し、学年共通で活動が進められていてすごいと思った。（鈴木委員）
- ・ 4月の参観会は子供たちが新学年になり緊張しながらも、生き生きとした雰囲気が感じられた。授業中の教師の子供に対する声掛けも適切で安心した。運動会は四ツ池陸上競技場で開催されたが、トイレなど設備もしっかりしていて良かったと思う。子供たちの応援席に日が差していて少し心配になった。（大橋委員）
- ・ 4月の参観会、大きな声で挨拶が出来ていたように思う。6月は、よりよい学級の雰囲気が感じられた。子供たちの発表の声がもう少し大きくなると良いと感じた。（山本委員）

- ・本校では、「話す・聴く」を温かい学級風土を作るための基盤だと考えている。1学期は、「聴く」ことを中心に指導を進めてきた。2学期は、「話す」ことにも力を入れ、指導に取り組みたい。(主幹教諭)
- ・運動会が全校児童参加型になり、異学年の発表を見合える場があることに大きな意味を感じる。学年・学級集団としての意味を考えるとともに、自他ともに認め合えることで個々の自己肯定感も高まったに思う。運営の方たちもしっかり準備されて、予定通りの時間に会が進んだことがすばらしかった。教師が運動会を楽しんでいるように感じた。その様子が子供たちにも伝わり、会場全体に温かい雰囲気があった。(森園委員)
- ・参観会の中で、保護者が授業に参加できる場面があり、授業展開が工夫されているように思う。(黒柳委員)
- ・参観会では、授業参観だけでなく、給食参観(1年生のみ実施)や家庭教育講座への多数の参加があった。(校長)
- ・地域とのつながりを徐々に取り戻している。ICTを活用した学習も良さがあるが、校外学習等を通じて、実際に見る、触れる、感じる等の体験を通じて学びとることも多々ある。今後、リアルとバーチャルという部分で、子供たちにとって、より効果的な学習を進めていくために、今回の取り組みを今後どう持続していくかが課題だと考える。(主幹教諭)

## (2) いじめ防止基本方針について

議長の指示により、別紙資料を活用し、事案をもとにいじめに該当する案件について全体で確認をした。その後、委員からは以下の発言があった。

- ・「いじめの定義」とその事例を、保護者が知ることが大事。教育現場と保護者とで、いじめに対する認識に大きな差があることが課題だと思う。また、被害者・加害者ともに成長していくことがよいのではないかと考える。(森園委員)
- ・学級という限られた空間で何かあれば、その子はその場に居づらくなることもある。本人が嫌なことは嫌だと言えるように成長を見守らなければならない。また、相手の気持ちを考える指導もあわせて行っていく必要がある。(山本委員)
- ・昨今のいじめ問題については、我々、大人に「一人でも、それが障害になり生きていけない子があつたらいじめ。」というメッセージを伝えている。世の中がそれに気づかないといかない。(青木委員)
- ・いじめる側の子が、どういう感情でやっているのかが大事。いじめの対象となる子を学級の中で見過ごしてはいけない。その子のよさを認め合うなど、その子が学級に存在している意義を意識させてあげることが大事。その子が学級みんなに認められた瞬間に、その子は変わると考える。(大橋委員)
- ・受け手とやり手の認識が違う。保護者もこのことを知らないと、子供に指導できない。保護者向けの研修をすべき。最終的には、子供たちも互いに認識の違いがあることを学ばないといけない。(池村委員)

## その他報告事項等

- ・森園学校支援コーディネーターより、クラブ活動への地域支援についての進捗状況についての話があった。
- ・オブザーバーの曳馬協働センターの大平さん(コミュニティ担当職員)より、センターの子供講座の紹介があった。
- ・司会から、次回会議は、令和5年10月27日(金)に会議室で開催する旨の報告があった。